

立候補意志表明書
2015年5月1日 日下敏彦

友人の誘いでえぼしスキー場でパラグライダーを始め、諸先輩がたのご指導で、これまで18年間航空スポーツを楽しんできました。近くのエリアの維持を手掛けて3年目。この愛すべき航空スポーツを、我々の身近なものとして維持していくには、大変な努力が必要だと身をもって感じました。

人口の減少に伴い、解決に向けて努力していかなければならない問題はたくさんあります。複数のパラグライダー組織、卵が先か鶏が先かの例のごとく、インポーター、教員が生活していけるようにするのが先か、広く一般的に愛好者が身近に航空スポーツを楽しめるようにしていくのが先か。

愛好者の減少に伴い近隣のエリアが次々と閉鎖していくのをみると悲しい限りです。近隣のエリアをひとつでも存続させようと活動を開始した私にとっては、フライヤー人口を増やす事が優先課題です。そして次にフライヤー人口を減らさないことが大切になります。

具体的には

①フライヤー人口を増やす

まずJHFは、エリアと指導員はセットものであると認識し、これを増やす方向で取り組む事が喫緊の課題と思います。

②フライヤー人口を減らさない

安全対策が必要です。
高年齢化と機材の進化により、練習をしないと個人の持つグライダーの操作技能はどんどん劣化が進んでいきます。
「エリアに行って1日1本楽しく飛べればいいや!」だけでは・・・、ダメです(自分への戒めも含んでおります)。技能を劣化させない為には、楽しく練習するためのバリエーションが数多く欲しいです。たぶん、これがうまく出来ているスクールやエリアが事故も少なく長続きしているのではないかと思っております。皆さまのところから、こここのところのノウハウを是非公開していただいて、編纂、公知していきたいものです。